

企 画 名：まつもと子ども留学 拡充事業

団 体 名：まつもと子ども留学基金

1. 報告要旨

当団体は平成 26 年 4 月から、福島の子ども達を対象に、自然豊かな松本市・四賀地区で、寮生活と教育を受けさせる留学事業を行っている。松本市や地元関係機関をはじめ、長野県内、全国各地の市民、団体の応援を受けて、2 年目の事業も継続させることができた。平成 27 年度は市民の方が、「明日の空」という子どもたちへの応援歌を作ってください、寮でお披露目集会をするなど、地域の中で、物心両方の支援の輪が広がってきている。市内チャリティコンサートや新聞などで、留学事業を広報をしていただき、認知度が上がり、支援の輪が拡大している。NPO の会員や賛助会員は、目標の 500 人には届かないが、寄付においては、個人・団体から年間 1500 万円以上が集まり、運営財政は安定し、引き続き 3 年目も留学事業を展開していく見通しが立ってきている。

市民や団体の寄付だけでなく、abt など助成団体の助成も大きい。abt 平成 26 年度の「スタートアップ」助成(人件費や広報費、保養関係費)により基盤作りができた。同じく平成 27 年度の「拡充事業」助成は、先年度の基盤の上に、留学事業を充実させる助成となった。

「居間拡張」により、ゆとりのある空間ができ、行事や交流などが充実してきた。「離れのトイレ設置」により、受験を控えた寮生の学習室としての機能や見学者や松本市内にホームステイしている男子中学生の宿泊など、関係者の施設利用の機能を高めることができ、寮生の受け入れ枠を増やすこともできた。

また、26 年度に引き続き助成された、「寮生の心と体のケアプログラム」では、専門家による心身のケアや学生による学習支援などにより、寮生の支援内容を充実させることができ、3 名の受験生は無事志望校に進学することができた。同じく福島県内の親子の「保養と見学会を兼ねた交流会」では、参加者が自然を満喫し、心配事の気持ちを共有をし、リフレッシュすることができた。さらに福島とのネットワークも広がった。同じく助成された地域交流事業としての講演会(「おしどりマコ・ケンさんのお話を聞く会」)は、地域の人たちとの交流と福島の現状について理解を深めることができた。

福島原発事故による放射能の影響は、福島県内や近県の子ども達の活動に配慮していかなければならない状況である。保護者のニーズに応えながら、今後も四賀地区の過疎地域の活性化に貢献し、留学事業への理解と支援の輪を広げていきたい。

2. 成果物

1. ニュースレター4~6号
2. 「山雅元選手 元気届ける 福島から避難 生徒と交流」市民タイムス (2015. 9.7)
3. 「子ども留学基金に善意 上兼健さんライブの収益」市民タイムス (2016.2.27)
4. 「子ども留学基金に寄付 社協 CDの売り上げ10万1700円」市民タイムス (2016.3.17)
5. 「福島から松本へ あすを紡ぐ子ども留学 帰郷が残るか悩み決断」信濃毎日新聞 (2016.4.13)
6. 「福島から松本へ あすを紡ぐ子ども留学 全国からの善意支えに」信濃毎日新聞 (2016.4.14)
7. 「福島から松本へ あすを紡ぐ子ども留学 住民からの支援を胸に」信濃毎日新聞 (2016.4.15)
8. 「福島っ子交流会」保養と見学会を兼ねた交流会のしおり